

# 架け橋

～広域紋別病院だより～

完成予想図



外観パース

※色彩などは工事の過程で変更になる場合があります。

新病院完成予想図

## 目次

1. 表紙
2. 院長あいさつ
- 3～4. 診療部から
5. 医療技術部から
6. 看護部から
7. 新病院の建設工事始まる
8. 病院行事報告・編集後記

### 病院理念

みなさんと心をひとつに、互いに尊敬と感謝の気持ちを共有し、笑顔の医療を提供します。

- ・常に、質の高い医療を安全・確実に提供します。
- ・生命、人としての尊厳を敬い、心のかよう医療を提供します。
- ・人材の育成に努め、働く喜びを共有できる環境づくりを進めます。

## 院長あいさつ



### ～広報誌創刊号の発行に当たって～

院長 及川 郁雄

広域紋別病院は、平成23年4月に道から移管され新たなスタートを切りました。

「みなさんと心をひとつに互いに尊敬と感謝の気持ちを共有し、笑顔の医療を提供します」という理念を掲げましたが、道立病院が長年に渡り担ってきた役割、即ち西紋地域で唯一の地域センター病院として二次医療および二次救急を恒常的に提供するという基本姿勢に何ら変更はありません。

しかし、これまでの道立病院は、その基本姿勢に縛られすぎていたのではないかと、急性期の専門医療を提供してさえいれば役割を果たしているかと自画自賛していたのではないかと、と密かに自戒しております。

今回の移管の最大の目的は「地域医療は地域でしっかり守りましょう」という点にありました。

ですから、地域の病院として生まれ変わった以上、地域のニーズに合った医療を提供することは当然のことです。

しかし、単に病気やけがを治すだけの存在では我々が目指す地域貢献を全うすることはできません。

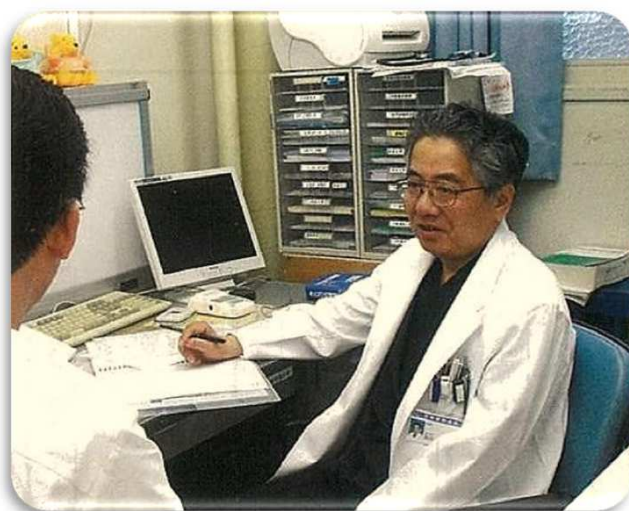
人が生まれ、育ち、働き、余生を楽しむという人生の流れのなかで、「健康」という言葉の重みは古今東西揺るぎないものであります。

また、「健康」とは「医療」のみで成り立つものではありません。

そして、我々は医療以外でも健康について沢山のことに関われる知識と技術を持っております。

保健、福祉の面でも我々がお役にたてることが沢山あります。関係機関と連携を深めるとともに、あるいは我々が率先して地域の方々が安心して生活し、人生を迎えることお手伝いすることが我々の使命と考えます。

中国の古い諺に、「大医は国を支え、中医は人を癒し、下医は病を治す」という一文があります。「国を支える」という立場ではありませんが、単に病やけがを治すだけではなく、地域の人々に安心と満足を提供できる存在を常に目指しております。



# 診療部から

## 広域紋別病院の診療科は？

今回、広域紋別病院の広報誌第1回目ですので、主な診療科がどのような疾患を扱い、どのような治療をしているのか簡単に紹介します。



副院長 曾ヶ端 克哉

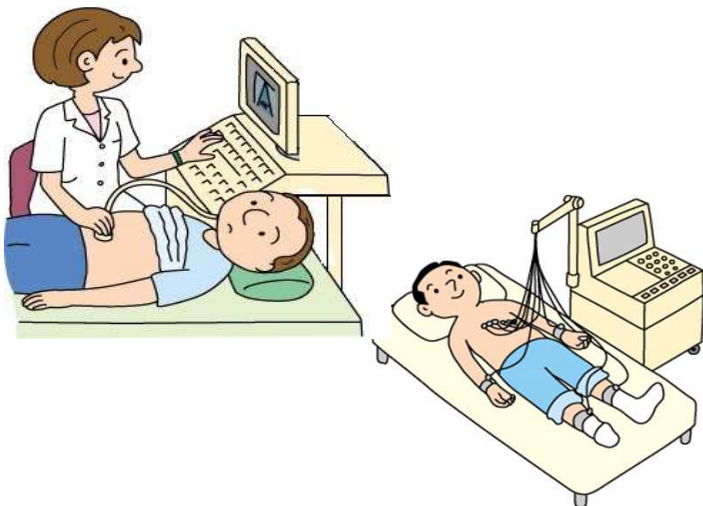
### <総合診療科>

広域紋別病院となってから新設された科であり、どこにかかって良いかわからない場合は受診をお勧めします。感染症一般、糖尿病、高脂血症など、原因がはっきりしない症状を扱っています。



### <循環器内科>

心臓・血管・腎臓の病気を中心に診療を行っています。他の内科と同様に高血圧・糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症など生活習慣病の診療も行っていきます。今まで火曜日外来と隔週金曜日が診療日でしたが、10月から常勤医師が着任し、今後は入院対応も可能になりました。



### <消化器内科>

消化器系疾患では、食道・胃・大腸癌、食道・胃炎、胃・十二指腸潰瘍、食道・胃静脈瘤、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、胃・大腸ポリープ等を扱っています。肝・胆・膵疾患では、肝炎、肝硬変、肝臓癌、胆石・胆管結石、胆嚢炎・胆管炎、胆嚢癌、胆管癌、膵臓癌、膵炎、自己免疫性膵炎を扱っています。

治療はラジオ波焼灼療法、胆管・膵管ステント留置術、内瘻術、胃・大腸・食道癌内視鏡的切除、抗癌化学療法を得意としています。



### <一般・消化器外科>

外傷・小外科をはじめとして痔などの肛門疾患・脱腸（ヘルニア）、そして乳腺・甲状腺の診療や治療を行っています。消化器系疾患に対する手術を行っており、腹腔鏡下手術を積極的に導入しています。周術期管理や手術において困難が予想される場合は、札幌医科大学と連携するとともに、術前・術後の抗癌化学療法も行っていきます。



※記事は次ページへ続きます。

### <整形外科>

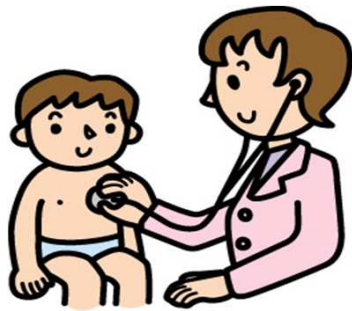
日常よく遭遇する打撲、捻挫、骨折を中心に診療し、投薬・外固定・手術を行っています。変形性膝関節症に対しては、投薬・関節注射・手術（人工関節置換術）を、肩腱板断裂には、注射・リハビリ・手術（関節鏡下の腱板縫合術）を行っています。また、スポーツ障害も扱っており、リハビリを中心に必要な方には大学と連携して治療を行っています。

脊椎疾患は基本的に保存加療を行っており、手術が必要な方は旭川厚生病院、札幌医科大学と連携しております。



### <小児科>

感染症一般、アレルギー、予防接種、1ヶ月検診を主に行っています。各種（心臓、神経、内分泌、血液）の慢性疾患は、旭川医科大学と連携して診ております。これ以外の疾患につきましては、小児外来にお問い合わせください。



### <産婦人科>

産科診療は、正常分娩や妊婦・産後健診を行っています。婦人科診療は、月経異常・外陰掻痒などの一般外来のほか、不妊相談も行っています。



### <精神科>

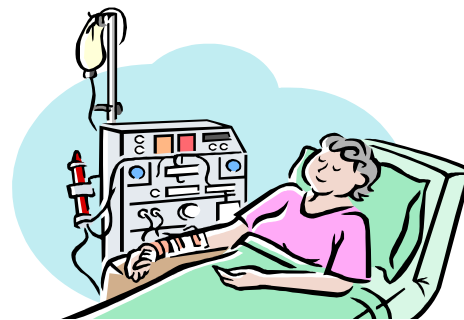
認知症・依存症・精神病・心の病・てんかん・神経難病から知的障害・発達障害・不登校・リストカットに至るまで、広く「こころ」の問題や「脳」の問題を扱っています。

新患は予約制ですが、約1時間を用意しています。基本は薬による治療ですが、薬を使わないこともあります。現在の悩みから本気で開放されたいと思っている方は、一度足を運んでみてください。



### <透析室>

旭川市の透析専門医の協力のもと、外科医が中心になって診療をしておりました。10月から循環器内科常勤医が赴任となり、今後は、従来他院に送っていたシャント血管に対するカテーテル治療も対応可能になりました。



※ これら診療科の他、出張医による診療を行っている呼吸器科・眼科・耳鼻科・神経内科・泌尿器科・皮膚科があります。今後、ホームページ等で診療内容に関してお知らせしていく予定です。当院の特徴は、他の大規模病院とは異なり各医師間の意思疎通がスムーズなところでしょうか。これを参考に、当院を気軽にご利用ください。

# 医療技術部から

医療技術部は、6つの係(薬剤、放射線、栄養指導、臨床検査、リハビリテーション、臨床工学)で構成しています。第1回目は疾病治療の中心となる薬を担当する薬剤系の業務を紹介します。

## 《薬剤係について》

薬剤係は薬剤師3名、薬剤助手1名で構成され医薬品の購入・供給・薬品管理、内服・外用薬・注射剤の調剤、抗癌剤の処方確認と混合調製、医薬品に関する情報の収集・評価、病棟活動等を行っています。

## ◎内服・外用薬・注射剤の調剤

薬の量や使用方法・薬の組み合わせなどが適切か確認したのち、調剤を行っています。自動錠剤分包機を活用し、患者さんが自己管理しやすいよう、一包化(薬剤1回服用分を1包にまとめる)にも対応しています。

## 抗がん剤の処方確認と混合調製



事前に投与量や投与間隔、投与方法が計画通りであるか照合を行っています。当日投与が可能なかどうかの連絡を受けてから薬剤師が混合調製を行います。

抗がん剤を安全キャビネットという装置内で調製することにより、医療スタッフの安全にも貢献しています。

## ◎医薬品に関する情報の収集・評価

医薬品に関する情報は、医薬品の選択時や患者さんへの服薬指導時などで常に活用されています。薬剤係では医薬品に関する情報を日々チェックし、患者さんや医療スタッフからの医薬品に関する問い合わせに対応しています。

## ◎病棟活動



チーム医療の一員として入院患者さんの薬物治療のサポートや安全管理を行っています。週1回行われる多職種カンファレンスに参加し、よりよい医療を提供するために他の医療スタッフと情報を共有しています。薬物療法の効果や副作用、内服状況などから、処方設計・用法用量・剤形の変更などを医師に提案することもあります。

入院患者さんのベッドサイドに直接うかがい飲み方・副作用・生活上の注意事項の説明も行っています。



# 看護部から

副院長(兼看護部長) 佐々木美保子

広域紋別病院の看護部について紹介します。(創刊号ですので、少し堅い話になりますが御了承ください。)

## 【病院理念】

**みなさんと心をひとつに互いに尊敬と感謝の気持ちを持ち、笑顔の医療を提供します。**

当院は平成23年4月に道から移管を受け、5市町村が経営する企業団の病院としてスタートしました。

道が経営する時代、病院経営の厳しさや医師・医療職の確保の難しさから、徐々に病院機能が低下し、二次医療圏の中心病院としての役割が十分果たしきれないところまできていました。

移管したこの病院に対して、住民の方々は、地域完結型の医療の中心となる病院としての機能の充実を期待しています。

私は、病院理念は病院職員は仕事のやりがいを、住民の方は受ける医療に対して満足感を得られるよう課題などを共有しながら、共にこの地域に必要な医療の確保と質の向上を目指すことを述べていると解釈しています。

看護部は、病院の理念に沿って以下のとおり理念・方針を定めました。

## 【理念】

**病院の理念・役割を認識し、地域の方が健康で充実した生活を送ることができるよう、ニーズに応える看護の提供をめざします。**

## 【方針】

- ・看護の倫理原則を遵守し、誠実公正な看護を提供します。
- ・科学的、創造的で主体性のある看護の追求に日々研鑽します。
- ・看護職が、キャリアアップできる環境作りに努めます。
- ・他職種と連携して経営の健全化に努めます。

看護部は、病院の方針や看護の方針に基づいて、本年4月現在、2つの病棟と外来・手術室、透析室の4つの部署を統括しています。また、医療安全室、医療材料室、保健医療連携室にそれぞれ看護職員を配置し、さらに教育委員会、業務委員会、リンクナース会議を運営しています。

私は患者さんに安心・安全な質の高い看護の提供のためには、人材育成に一番力を注がなければと思っています。移管当時の看護職員数は道の派遣職員11名を加えて72名でしたが、今年10月現在、道職員の転出後でも、83名となりました。順調に職員数は確保されてきましたが、今後もこの地域で暮らし、子供を育て、親御さんを介護する年代まで、幅広い世代の看護師がそれぞれの個性を活かしながら成長できる職場にしていきたいと考えています。



## 『ナースこぼなし』 その1

先日、朝の出勤時にみかけた場面です。病院正面玄関前のスロープを下った所に、高齢の男性がちょこんと腰掛けていらっしゃいました。

そこを通りかかった看護師のAさんが「どこか具合でも悪いのですか？」と、すかさず声をかけました。その男性は「いえ、休んでいるだけです」と笑顔。「そうですか。おはようございます。お気をつけて」と軽く会釈をして、職員玄関に入っていました。私はその姿をみて「さすが、プロ・・・！」と、大変うれしい気持ちになり、その日1日、気持ちよく仕事できました。

皆さんと心を一つにして、こんな看護師スピリットを大切に育てていきたいですね。

# 新病院の建設工事始まる!

新病院も8月末に工事の安全祈願祭が行われ、建設工事が始まりました。これから病院がオープンするまでの工事の進ちょく状況について、随時紙面で紹介していきます。

○7月から造成工事が始まり、9月からは基礎掘削工事や地盤改良工事が行われ、新病院の工事が本格的に始まりました。

10月現在、基礎工事が進められており、今後は、年末まで基礎工事や地下免震層工事が行われ、来年2月には免震装置が設置される予定です。



①安全祈願祭を行っている様子



②基礎掘削工事を行っている様子



③地盤改良工事を行っている様子



④基礎工事の様子

○新病院の完成まで、次のスケジュールで工事等が進められます。

広域紋別病院建築工事等工程表																					
平成25年度				平成26年度												平成27年度					
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
← 建設工事 →																破工 予定	⇄ 移転準備 ⇄			開院 予定	

○工事の進ちょく状況や現場写真等については、随時、広域紋別病院ホームページにて公表しておりますので、どうぞご覧下さい。

# 病院行事報告

当院では、平成23年度から、住民の皆様が医療や健康について正しい知識を持っていただくため、札幌医科大学との共催により、市民公開講座を開催しております。今年度は、6月と10月に2回開催しましたので、その結果をご報告します。

1) 「第6回市民公開講座」 平成25年6月20日(木) 18時30分～20時00分

①「下肢のしびれ、疼痛に潜む動脈硬化性疾患」～下肢閉塞性動脈硬化症について～  
札幌医科大学「道民医療推進学講座」 特任助教 西田 絢一 先生



紋別でも患者が増えており、身近な病気であるという説明に、会場に集まった230名の皆さんは、真剣に聞き入っていました。



②「ロコモティブシンドローム」～いつまでも自分の足で歩くために～  
札幌医科大学「道民医療推進学講座」 特任教授 和田 卓郎 先生

ロコモという運動器が加齢によって低下する症状について、分かりやすい説明とロコモ予防の体操を実演するなど、市民参加の講演となりました。



2) 「第7回市民公開講座」 平成25年10月24日(木) 18時30分～20時00分

①「がん診断治療の最前線」  
札幌医科大学「道民医療推進学講座」 特任助教 池田 博 先生



患者数が増えている「がん」について現在の最新治療法などを分かりやすく説明していただきました。



②「遺伝子診断による病気のかかりやすさ、薬の効果の予測」  
札幌医科大学「道民医療推進学講座」 特任講師 前佛 均 先生

近年の遺伝子研究により、特定の病気のかかりやすさや、薬の効果・副作用などの予測ができるようになってきている事などの説明により、会場に集まった130名の皆さんは、真剣に聞き入っていました。



## 編集後記

- ◎広域紋別病院となり、初めての広報誌を発行いたしました。広報誌名「架け橋」は、この広報誌により医療に携わる者(職員)と患者さんや地域住民の皆様とが繋がって行く事を願い、付けさせていただきました。
- ◎第1号ということで、色々不備な点もあると思いますが、皆様からのご意見や感想などいただきながら、「広域紋別病院の今」をお伝えする紙面づくりに努めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

編集：広域紋別病院広報委員会

発行：広域紋別病院

〒094-8709

紋別市緑町5丁目6番8号

TEL・FAX 0158-24-3111

URL：<http://www.mombetsu-hospital.jp/>